

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891900066		
法人名	株式会社 ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂 グループホームおの南		
所在地	小野市市場町1080-1		
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感が感じられるように毎月、お花や壁画を飾り、資格から楽しめる空間作りを実施しています。また、小野市内への外出企画を多く持ち、住み慣れた町での思い出が入居後も続くように活動をしています。気候の良い季節は、施設の前にある山田川沿いを散歩や中庭でのひなたぼっこを楽しみ、天候が優れない日には全体レクリエーションの時間を設け、フロアの開放を行なっています。同じ空間に、同じメンバーで常に行動するのではなく、18名の方が交流し合える時間を作っています。夏祭りや秋祭りでは大門も開放し、地域の方が気軽に遊びに来れる日を設けています。町の神輿の休憩ポイントにもなり、地域の子供達とご入居者様と交流できる場を作っています。洗濯物の干す、たたむ等もご入居者様が協力しながらできるように、移動型の物干しを使用し、生活習慣の維持ができる環境を作っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の建物の南側には小川と稲田が広がり、桜並木が続いている。ちょうど良い散歩道であるが、町の集落からは離れており、店舗もなく地域との繋がりが難しい。・職員の体制や質の確保はなされており、管理者はじめ職員は入居者や家族の気持ちに添ったケアプランと介護に努めている。1階2階の入居者が行き来して、笑顔と落ちついた様子が伺えた。・ボランティアが無償で事業所の敷地内の草むしりをしたいと訪ねて来てくれた。慣れれば、そんな親しみやすい土地柄なのでしょう。夏祭りには、門扉を開放して屋台を作り地域住民が40数名も参加してくれた。秋祭りには事業所は神輿等の休憩場所を提供、協力しにぎやかであった。・そんな地域との繋がりが開設以来のわずかな年月に生まれつつある。これからの発展を期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念を入社時に説明し、自分たちが考える介護を管理者と話し合う機会を設けている。また、カンファレンスなどで話し合う機会を作り、職員、管理者で理念を共有している。	わかりやすく作られた、「まんてん堂の三つの理念」を入社時に説明している。その理念を職員間で話し合い共有しようと努めている。月1回の職員との面談時に自分たちが職場をこうしようという目標設定を作り実践に結びつけようとしている	母体法人の理念そのままではなく、事業所として何が大切かを考え、地域や利用者のニーズを入れた独自の標語や理念を作ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小野市内の店への買い物、馴染のある場所に外出する機会を設けている。また、夏祭りや秋祭りを行ない、地域の方に施設に来て頂く機会を設けている。	近隣の方が無償ボランティアとして、週1回敷地内の草取りをしてくれている。夏祭りには門扉を開け縁日の店を出し、地域の方40人の来訪があり介護相談にも応じるようにした。地元の市場町の秋祭りは、神輿の休憩場所として敷地の一角を利用してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているボランティアの方に来て頂き、認知症を患っている方と交流できる機会を設けている。長年施設近隣にお住まいの方がご入居され、グループホームへの理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に1回のペースで実施している。施設内での行事や運営状況の報告を行ない、ご家族様・知見を有する方からご意見を頂いている。	利用者、家族、介護保険課、知見を有する者が参加している。行政の指示により半年に1回の開催で、事業所の体制、イベント情報、事故対策委員会の活動の報告等がある。家族との意見の交換もあり、参加していない方にも記録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より些細な事でも、市役所担当の方に報告・相談を行ない、指導・助言を頂き、よりよいサービス提供に努めている。	利用者の介護保険申請や保険の改定時に行政から丁寧に説明を受ける。行政窓口とは折に触れ利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携を欠かさないようにしている。空室情報を地域包括支援センターに報せ、入居希望者の紹介を受けることもある。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では社内研修を行い、周知徹底し身体拘束排除に努めている。	1階と2階に入る扉の鍵を週4日は開放して、利用者がどこにでも居場所的にくつろげるようにしている。階ごとの違和感を覚えたり、閉塞感を感じる事が少なくなり、多くの入居者が個々に顔なじみとなっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	1年に1回の虐待研修の参加必須事項とし、周知徹底している。また、自分たちの行動が虐待になっていないか検討する機会も設けている。	職員が研修を受け、虐待防止の考えを徹底している。月1回の職員と面談をおこない疲労やストレスの把握に努め、利用者へのケアに影響を及ぼさないようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会が持たず。今後の研修の予定には入っている。(現在使用されている方おられず)	成年後見人制度を利用している方はいない。利用の必要性があると思われる方を、以前小野市役所に紹介した例があった。	家族がいないなど、一人暮らしの方が増え、サービス利用や手続などの契約行為の際に、成年後見人の存在は重要になって来ています。運営推進会議などのメンバーを対象にして社会福祉協議会等に勉強会をお願いしたいかがでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明から契約に関しての内容以外に、グループホームの生活内容やご不安な点をお聞きし、その都度答えている。	契約時には、管理者と計画作成担当者が重要事項説明書等を使っている。事業所に入居することが家族にとって決してマイナス面だけではないこと、転倒などの医療的な処置が必要になることもあること、希望によっては看取りも実施するなどを丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。ご家族の意見は常に職員や管理者に直接伝えていただけている。また、外部の相談窓口の案内も行なっている。	ファミリークラブの名称で家族会が3月に発足する。家族とは気楽に話せる雰囲気を作るようにして、話題には良いことを2つ、良くない事一つお聞きする。近隣の病院や訪問看護ステーションとの連携を密にして、医療面での不安の解消に努めている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務ミーティングや月に1回の職員面談を実施し、意見や思いを聞く時間を設けている。また36協定にて職員代表を設置し、会社への意見を吸い上げ提出している。	管理者との1対1の面談を職場ごとに行っている。「夜勤はしたくない」との職員がいたが、本部との相談により、小規模多機能型居宅介護に移動する等、人事については現場の意見を反映しながら本部と密接な関係をもって良い職場運営に心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規事業では、公募を募り、ステップアップできる環境を整えている。また、年数やスキルに応じて、外部研修や体験研修に行き、やりがいをもち働いている。また、職員は個人目標を立て、達成度の聞き取る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を1週間実施し、基礎から学ぶ機会を作っている。また、内部研修の開催やケアに困っていることを話し合う機会を作っている。外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小野市内のグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行っている。他まんてん堂のグループホームの職員との交流会や事例検討会を実施し、知識を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人に要望を聞き基本状況だけでなくわかりうる範囲でのアセスメントを取っている。また、日々の関りの内容をご本人に確認しながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談から入居当日に繋がるまで、同じ職員が出向きご家族との関わりを持つようになっている。また、数回の訪問により馴染みの顔になれるよう工夫している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当面の介護計画を立て、情報が得られる内容での関り方を示すようにしている。暮らしの中で他のサービスの支援も視野に入れ努めている。電話連絡等話をする機会を作るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に自分たち本意のケアで考えていないかを話し合う機会を設けている。また、ご入居者様が望むことをどう実施するかをご入居者様と一緒に考える時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常のご本人の生活状況を詳しくお伝えし、ご理解を頂いている。できるだけ面会に来て頂き、一緒に過ごす時間を大切にもらっている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係にある方にも積極的に来所して頂くように声をかけている。また、近くの店に行き、馴染みのお店で買い物する機会を設けている。	利用者には近隣のご家族が多いので、日頃から昔からの友人が訪ねてくれる。いつも来るパン屋さんの金曜日をこころ待ちにし、利用者は好みのパンを買い、次の日の朝食とする。1週間に1回の門扉が開く楽しみの時でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が楽しく話をされている時は見守り、雰囲気壊さないように努めている。また、協力して家事や食事作りなどをして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され、違う施設にご入居されているご本人様やご家族様からの相談にも対応している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を聞き、プログラムに反映している。特に夜間や入浴時にはゆっくりと話を聞き、得たニーズは朝礼にて報告し、ケアプランや日々の活動に活かしている。カンファレンスにて、ご意向を検討する機会を設けている。	日々の暮らしの中でのあらゆる場面から、本人の思いや希望や変化を把握している。毎朝礼時に1,2階のフロアーが合同で全入居者の情報を共有し、即カンファレンスを行っている。意思疎通の困難な方は家族から聞いたり、日常の行動や表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の生活歴をご本人、ご家族に詳しくお尋ねし、生活環境を把握し、職員間でも情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、全ご利用者様に挨拶し、表情や身体状態の変化の把握を行っている。体調やその日の気分にあった接し方を心掛けている。業務優先ではなく、ご本人のペースを優先している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成者が話し合い、現状の把握を行なう。また、月1回はカンファレンスを実施し、ケアのあり方を話し合う。家族様のご意向は計画作成が事前に確認し、計画に反映させている。特に重要な計画はモニタリングを毎日実施している。	全職員が入居者の現状が把握できるシートを作成し、具体的なケアプランが実施されるように努めている。モニタリングは本人、家族の要望等を聞いて3~6ヶ月毎に見直す。小さな変化に対応できるように毎日点検し、関係者とも連携している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアの実践結果を個別のケース記録に記入している。朝礼にて、ケアの変更を感じたことは報告し、ケアプランの変更にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能型ホームと連携した行事の実施している。不調時、ご家族様が受診の付き添いが出来ない時は職員が付き添い受診している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源の把握に努めている。ご希望に応じて、馴染みのお店にでかけたり、喫茶店にでかけるなど個別に対応している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力指定医による往診、月2回の訪問看護の巡回が行なわれている。従来のかかりつけ医の継続の際は定期受診にご家族の付き添いをお願いしている。	内科は協力医療機関の小野病院から訪問診療を受け、24時間連携体制の契約をしている。他の皮膚科、リウマチ科、整形外科などは入居する前からのかかりつけ医に家族が付き添い、受診結果の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護師により健康チェックや医療面との情報を交わし、相談を行なっている。また、変化がある場合は電話にて相談を行い、連携を図っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の訪問(見舞い)や、ご家族と医師との話し合いの場に同席させて頂き、退院までのご入居者、ご家族との関わりを持つようにしている。病院の地域連携室とも連携し、通院時や入院中も情報が適切に伝わるようにしている。	現在1名が入院中である。できるだけ多く面会に行き、常に医師、看護師、地域連携室の相談員と情報交換し、本人家族とも話し合っ早期退院に向けた取り組みを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはご入居時に指針を説明し同意を得ている。また、ご家族と医療関係者と交え、話し合うカンファレンスを必ず設けている。また、職員の不安感もあり、訪問看護師や、協力指定医への連絡を密に取り、状態把握をおこなっている。	契約時に本人と家族に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明して、同意書に署名捺印をもらっている。事業所の職員体制、医療機関との連携、具体的な支援内容などについても話し合っている。実際に穏やかな看取りを行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや社内研修にて緊急対応の勉強会を行っている。定期的に、急変時の対応方法を全職員が把握しているか確認を行なっている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部にご協力頂き、年に2回消防訓練を行い、シミュレーションからご入居者へご協力頂き、全員避難を目指し取り組んでいる。また、地域の方にも参加の呼びかけを行なっている。	前回の消防訓練には1家族の参加があり、入居者の避難訓練も行った。建物の南側には川があり、北側の玄関前には山からの下り道路がある。以前集中豪雨があり、玄関に水が流れ込み、土嚢を積んだことがあった。備蓄や持ち出し書類などの準備はある。	最近、想定外の豪雨が多発しています。特に夜間は職員だけでの対応は困難です。消防訓練には地域住民や家族にも参加を依頼して、協働の訓練をされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度などの接遇に関する研修を実施し、尊厳を守れるように心掛けている。また、ご入居者様の情報伝達実施場所を気をつけ、プライバシーの保護及び尊厳を守っている。	接遇研修を行い、常に一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切にしたい支援を心がけている。同性介助は職員体制上からは困難だが、言葉がけに注意して、さり気なく声かけや援助をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発言しやすい環境を整え、自己発言・自己決定していることをないがしろにせず、対応するように実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご入居者の方が思い通りの生活ができるように、希望を聞いている。読書や歌を歌うなど好きなことができる時間を組み込んだ計画書を作成し、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみを整えてもらっている。(櫛で髪を整えたり、髭を剃ったり等)外出前には、事前に声かけし、お出かけの服をご自身で決定し、用意してもらっている。帽子やスカーフなどお気に入りの物を身につけられている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月3回は食事作りの日を決め、食べたいものを相談している。また外食や喫茶店でかける機会を作り、好きなものを食べて頂いている。食器洗いを職員と一緒に実施している。	業者から届いたものを温めて盛り付けしている。ご飯はキッチンで炊き食欲を呼び覚ましている。食事委員会が中心となって、入居者と話し合い月3回の手作り食事会を楽しみにしている。焼肉、ブリ大根は好評だった。外食の回転寿司では普段食欲の少ない方もたくさん召し上がった。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居前の食生活状況を把握し、その方に合った量を提供している。また、定期的に水分を配り、一日の水分量把握し、健康管理に努めている。極端に食事量の少ない利用者には、経口栄養剤を処方してもらい、必要エネルギーを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医からその方に合った口腔ケア方法を指導いただき、実施している。ご自身で、口腔ケアをされる方も奥まで清潔になっているか確認させて頂いている。毎食後の口腔ケアを行ない、義歯洗浄も毎晩実施している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意があり、少量の失禁のある方はリハビリパンツやパットで対応している。失禁が改善された方は、布パンツに変更することもある。排泄パターンを理解し、早めのトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。早めの誘導により4人が布パンツに戻せることができた。排便には牛乳やヤクルト、ゼリーなどを摂取して運動を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品も含めた水分摂取を促すと共に、散歩・体操などの運動の時間を設け、腸の動きを良くするように支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ず、個別で対応し、急かすことなくゆっくり入浴して頂いている。時間帯をご希望時間にできるだけ添えるように行っている。入浴拒否がある方には、ご本人のペースを崩さないように声掛けすることで、入浴ができています。	これまでの入浴状況を聞き、生活習慣に合わせた時間に利用できるように支援をしている。入浴時はくつろいでゆっくりと個別に話ができる大切な時間となっている。季節ごとにゆず湯や菖蒲湯など楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なことがあると、寝つきが悪くなる方には、気持ちが落ち着くまで話を傾聴している。無理に静養して頂くのではなく、疲れ具合を見ながら、居室に誘導している。ご本人の睡眠パターンを把握して対応している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、薬情報の把握に努めている。ご入居者様の身体状態を理解し、必要に応じて、薬の変更を往診医や訪問看護師に相談している。また、誤薬がないように名前の確認し、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ・食器洗いを職員と一緒にし、その方ができる能力を活かし、家事の役割分担を行なっている。レクリエーションは個々の希望を取り入れた内容を実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は畑で日光浴や山田川沿いを散歩している。車を使用し、ひまわり公園やイオンなどでかける機会を多く作っている。ご家族様とも外出する時間を作ってもらっている。	南側に川と桜並木が広がっており、良い散歩道となっている。近くに店舗がないので車で買い物に出かけたり、足湯に行ったりしている。半年に1回は家族との外食会を設けている。頻繁にドライブして喫茶店に行っている方もいる。	リビングには楽しい笑顔の外出時の写真がたくさん貼ってありました。アンケートに外出の機会が少ないと記入されていましたが、「お便り」で家族にお知らせされては、どうでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで、物取られ妄想が見られるため、金銭管理は職員が実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	使用できる方には携帯電話にてご家族と話す機会を設けている。ご家族の声が聴きたくなった時は、ご自宅に電話して頂き、安心してもらっている。年賀状やお手紙が届いた時は、お返事を書けるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう四季折々の花や、季節行事の張り紙また、イベントがあった後に写真を現像し、フロアで見ただけのようにしている。また、刺激のあるものでなく心地の良いものにし居心地を確認している。	1階のフロアは女性ばかりなので、手作りの季節の貼り絵(雪だるま、豆まきなど)や写真、花などが飾られている。2階は男性が多く、シンプルですっきりと落ち着いている。好きな時に自分の部屋に戻れるようにと入口はオープンにして、自分の部屋が見えるように配慮されている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームおの南

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの周りに個室があり、ご入居の方は自由に行き来されている。また、ご入居の方のメンバーやADLの状況に合わせて、共有スペースの配置も変更している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内については馴染みの物などを置き、写真や花を飾り居心地の良い空間を作っている。また、テレビ・ラジオ・音楽も自由に視聴して頂いている。	各居室の前には手書きの表札があり、顔写真の貼ってあるところもある。温湿度計、加湿器、エアコン、クローゼット、カーテンは用意されている。それぞれの馴染みのたんすや人形、写真などを飾り、安らぎが得られるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の場所や時間・トイレの場所がわかるように張り紙をし、ご自身で理解して行動できる環境を作っている。歩行が不安定な方にはベッド柵に介助バーの設置している。		